

小笠原で暮らすイルカたち～この夏出産したメスイルカ～

7月以降、新生児を連れたミナミハンドウイルカがちらほらと観察されています。そこで今号では、現在確認できている新生児連れの母イルカたちをご紹介します。仔イルカたちもすくすくと元気に育ってほしいですね！



#259 ♀
フニャ
観察歴
2009年～



#281 ♀
パックマン
観察歴
2012年～

主に母島列島周辺海域で観察されている個体。フニャと曲がった左の胸ビレが特徴です。新生児の同伴を確認したのは7月10日。6月9日に会った時はまだ新生児を連れていなかったため、どうやらその間に出産したようです。

先端が二股に欠けた特徴的な背ビレをもつ個体。2021年までは父島列島で出会うことが多かったのですが、最近は主に聳島列島で確認されています。今回、新生児を連れた姿が観察されたのは7月17日のことであり、それも嫁島でのことでした。



#320 ♀
ドッグイア
観察歴
2016年～



#393 ♀
LL
観察歴
2022年～

これまで父島列島と聳島列島で確認されている個体。左胸ビレにある切れ込み部分が外側に折れ曲がっているのが特徴。胴体後方に凹みも見られます。こちらも、7月17日に嫁島にて新生児を同伴する様子が確認されました。

イルカ通信No. 111でご紹介した、聳島列島の媒島を利用する個体。7月17日に媒島で撮影された写真から、新生児を連れている姿が確認されました。背ビレにある三角形（L字型）の欠けに加えて、右胸ビレにもL字型の欠けが見られることから、「LL（エルエル）」というニックネームとなりました。

この夏もハシナガイルカの新生児を連れたミナミハンドウイルカを確認

ミナミハンドウイルカによるハシナガイルカ新生児の同伴行動が、この夏も2例報告されました。どちらも嫁島海域での出来事で、7月10日、11日と立て続けに起こりました。7月10日は、#358（右チョキ）として識別されている出産経験のないメスイルカによるもので、翌11日は、出産経験のある#330（ピッケ）によるものでした。この2個体のうち、#330に関しては、昨年8月にもハシナガ新生児の同伴が観察されており、2年連続となりました。こうした行動が行われる理由はわかっていませんが、子育て経験値アップ等のメスイルカ自身の利益のためや、母性本能による利他的な行動、もしくは単なる新生児への興味といったいくつかの仮説が考えられます。情報蓄積のため、今後も同様の事例を目撃された際には、ぜひOWAまでお知らせいただけますと幸いです。



#330 ピッケ

ハシナガイルカの新生児を連れているピッケ